

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ(鶴ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200107&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法・生け花教室・手芸教室など利用者が楽しめるアクティビティを提供している。開所から6年を経過して自力では何も出来ない利用者もおられるが、職員の支援で楽しむ事が出来ている。介護度1の方から5の方までおられるので、利用者全員の自尊心を傷つけないように配慮している。食材に関しては出来るだけ地元の業者に肉や魚、米などを配達してもらい毎食職員の手作りの食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げる理念を下に新しい年度に向けて職員間で話し合いやすい言葉を作り上げ、それに実践を繋げていけるように努力している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションを利用しているので順番がきたら清掃している。地域の店で買えるものは買うようにしている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然に来訪してこられたり電話で相談される方もあるので相談を受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員から地域の情報を提供してもらったり、参加してもらっている家族からも来訪時には聞けないことも聞けるので、その内容はユニットに持ち帰り検討している		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近では運営推進会議にも毎回出席してもらえるので、疑問点など細かく説明してもらえている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびすべての職員が身体拘束とはどういうものなのかを理解するように努力している基本的に夜間以外施錠はしていない		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待を考える」という冊子を参考に短い時間ではあるが少しずつ研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の利用者が成年後見人制度を利用されるという機会があったので会議の時間にどういものか学習はしたし、その利用者との関わりの中で具体的な事も少しずつ理解している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まり契約の段階になった時に十分に時間を取り説明を行い、疑問点は尋ねやすいように理解していただけるように努力している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケート結果や来訪時の会話の中からそのような話が聞けたら運営推進会議で議題に上げ検討している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の職場の中で職員の意見や提案を聞くことができる。管理者はその意見を代表者に言うことができる		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表が出来上がったら渡している。また職員の個々の状況はその都度報告している。条件等についても年度ごとに見直しをしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の条件を満たしている者には受験をするように勧めている。研修も職員の力量に合わせて勤務日に受けられるように調整している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市のGH事業者向けに専門分科会が定期的で開催されているので管理者が主に出席して、他事業者の職員と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションをとりながら、不安や要望など思いを表現していただけるような時間をつくるようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期だけでなく家族と顔を合わせる機会を重ねる中で家族から見た本人の在宅時の生活状況やの不安や要望などをうかがっている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族と顔を合わせ、生活状況などを伺い、検討している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主導になってしまっていることもあるが、それぞれの人のできることをお願いしたり、一緒にするよう努めている(洗濯物たたみ、トイレトーパー等物品の補充、布団干し、食器洗い、水やり等)		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品持参や受診援助はなるべくご家族にお願いして本人と顔を合わせる機会を設けている。家族来訪の際には日頃の様子を伝え生活状況を把握していただくようにしている。同時に家族からも情報を得るようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのある方とは入居後も面会での交流を続けていただいている。行きつけの美容院などあれば継続して利用していただいている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、席の配置をしている。入居者同士の関係が円滑に保たれるよう、聴力の悪い方やコミュニケーションをとるのが難しい方には職員が間に入るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には写真や色紙・本人の作品等を渡している。退去後家族と連絡をとる機会があった時には、本人の現状を伺っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の思いを汲み取るようにしているが、コミュニケーションをとるのが難しい時には家族にも相談し本人の気持ちを考えケアに活かせるようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの生活を聞いたり、日々の関わりから当時の生活状況をうかがい知ることができたりするのでふだんの会話を大事にしている。知り得た情報は記録に書き職員同士で情報を共有している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で入居者が出来る事、援助が必要なことや利用者が話した内容など記録し職員全員が把握できるようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態変化があれば会議の時にカンファレンスをして、その課題についてどのようにケアしていけばいいか話し合いをしている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に昼夜の様子や本人の言葉など書き、職員間での情報がきちんと共有できるように申し送りをしている。必要時には会議でのカンファレンスにおいてケアの見直しを検討している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品持参や受診などは基本的に家族にお願いしているが、家族が遠方にいる、家族の対応が難しいなど状況に応じて相談の結果、職員が家族に代わり対応している。デイサービスで行われるイベントに参加させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員や地域包括支援センター職員、サブセンター職員に出席していただいている。地域の情報を提供していただき参加できることがあるか検討している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医による外来受診・グループホームでの往診を受けている。受診は基本的に家族対応だが難しい時は援助している。必要時には主治医宛てに手紙を書いたり職員が受診に同行することもある		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師に健康管理に関わってもらっている。一週間の様子、尋ねたい事を伝えアドバイスもらっている。爪の状態により切りにくい方の爪切りをしてもらったり、気になる症状があれば診てもらい早期治療に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関や家族から現状を聞き、退院後にどういった生活援助が必要になるかなど今後に向けての話をする機会を設けている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設では終末期対応ができないことを説明し同意書を交わしている。重度化したときは家族と話をする機会を設け、受け入れ先など今後に向けての話をしている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の・家族への連絡先や既往歴・服薬説明書をセットにしたファイル・連絡網・マニュアルを用意している。訪問看護師に対応の仕方のアドバイスをもらうこともある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年毎に避難訓練を利用者と一緒に行っている。今までは火災想定だったが10月には水害想定での訓練を行った。実際に利用者と共に避難予定場所までの移動も行った。訓練を通してのマニュアル作成や緊急持ち出し袋の用意など今後行っていく。地域への協力体制確立までには		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感のある声かけをしてはいるが、目上の方であることは念頭に置いて接し、自尊心を傷つけないよう接している。自分で出来る事はなるべくしてもらい、利用者の気持ちを察しながら必要時には援助をするようにしている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が選択し決められるように心がけているが、職員主導で決めてしまっているところもある		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは大体決まっている。その時の体調や気分に合わせて本人のペースに合わせるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に訪問理美容に来てもらい散髪してもらっている。行きつけの店があるかたにはそちらに通って頂いている。頭髪や着衣の乱れを整えたり爪や髭剃りなど自分ですることが難しい方には援助している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から食べたい物を聞き、メニューに活かすようにしている。できる方とは調理・盛り付け・片づけを一緒にしている。同じ献立でも利用者の体調に合わせて調理法や量を変えている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに応じてお粥や刻み食を提供している。水分も一日1000ml以上の摂取を目標にしている。なかなか摂れない方には水分補給ゼリーを飲んで頂いている。摂取状況確認の為、チェック表を付けている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをし、必要な方には介助している。口腔状態に異変がある時には歯科往診をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表をつけている。必要な方には定期的に声かけ・誘導をし、できるだけトイレで排泄できるよう援助している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日をチェックし必要な方には腹部マッサージで排便を促している。朝食にはヨーグルトやバナナを出したり、飲み物にミックスジュースや乳酸菌飲料を出すなど工夫している。また、排便を促す薬を服用している利用者には排便状況により薬の量を調節している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望の日時の入浴は難しい。決められた時間内ではあるがその中での考慮は可能な限りしている。羞恥心に配慮して安全に入浴していただけるよう援助している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいると横になっていつの間にか寝てしまい夜間の睡眠に影響するので、できるだけフロアで過ごしてもらうよう声かけしている。一人一人のペースやその日の体調もあるので適宜休息もとってもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分け・管理を確実にを行い、服用の際には本人の薬であること、日付け、服用時間帯の確認し飲み終えるまで見届ける。服用後はチェック表につける。処方変更があった時はケース記録に記載し申し送りもしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや調理など日常生活の手伝いやアクティビティを無理のない範囲で参加してもらっている。月2回、外部から先生を招いて生け花教室・手芸教室・音楽療法をしている。全員参加ではないが参加意欲のある方、職員と一緒にできる方としている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日にはウッドデッキに出て過ごしたり一緒に水やりもしている。少人数ずつそれぞれの状態に合わせて近隣への散歩や車での外出もしている。本人からの要望があれば家族に連絡し協力を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を置いている方、家族から預かり事務所で管理している方もいる。家族からお金を預かる時は、金銭出納帳に残金・入金確認の為に印鑑を頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は依頼があれば対応するが、現利用者からはそのような依頼はない。手紙はポストへの投函援助		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った貼り絵や飾りつけをしている。また、利用者が安全に過ごせるように物品の配置に気を配り室内環境を整えている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれがフロアやウッドデッキ・居室など思い思いの場所で過ごして頂いている。その中で利用者と職員・利用者同士・必要な方には職員が間に入っの会話などもある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本人の馴染みの物を持ち込んでもらったり写真や塗り絵などの作品を飾ってもらっている。また、居室で安全に過ごせるよう家具の配置にも気を付けている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が不安なく安全に過ごせるよう物品の配置に気を付けたり、居室の場所がわかるように表札をドアに掲げている。居室で過ごす時に移動に援助が必要な方にはベッドに小さい鈴をつけさせて頂いている		